


2月 例会 山行報告書 個人		報告者 松中、吉田、江頭 報告日 3月11日	参加メンバー 亀山、町田、金子、天野、吉田、阿部、油井、石井、佐溝、浜島、三矢、渡辺(勝)、渡辺(育)、須藤さん、江頭
山域 奥美濃 山名 水後山・白鳥ウイングヒルズスキー場	山行日 09年2月20日(金)～22日(日)		

山行目的 雪上技術の向上	コースタイム(天候:天気図記号)
--------------	------------------

配布先 集会:10 山行:1 リーダー 原紙:集会担当者	ルート図(地図を) 水後山(1560m)		2月20日(金)雨 19:00 N1駐車場発 22:00 民宿おしたに着	2月22日(日)晴 07:00 起床 07:30 朝食 イトシロシャローツスキー場 12:30 餅つき大会 14:00 現地解散
	2.5万分の1地図:石徹白[岐阜]		2月21日(土)晴 水後山 07:00 起床 07:30 朝食 08:40 おしたにさん発 09:30 駐車場発 10:33 ゴンドラ降り場発 11:26 一本(12分) 12:00 頂上着 12:30 頂上発 13:00 ゴンドラ降り場着 14:00 満天の湯駐車場着 ウイングヒルズ白鳥スキー場 10:30 滑走 18:30 帰宿 18:45 夕飯/懇親会	

<2/20>

2月度例会である。朝から現地入りの浜島、佐溝、三矢の三先輩は残念ながら雨でスキーを断念されたそう。佐溝先輩から後発隊出発に合せて現地情報、雪とのことで亀山車、阿部車は慎重に舵を切って、民宿「おしたに」に接岸。恒例の懇親会となる(江頭)。

<2/21 水後山>

登り始めた時刻が遅い事もあり、ゴンドラを使いそこから登る事とした。幸い天候は晴れて来た。また風も弱く絶好の登山日よりとなった。ゴンドラを降りたところで初めてのスノーシューをはく。吹き溜まりの柔らかな雪・ウインドクラストした表面のみ固い雪・次々と変わる雪面を楽しみながら登って行く。金子さん・油井先輩が交代で先頭に行く。1/3程の地点で、渡辺先輩から「天野にルートファインディングをさせろ」と声がかかり、先頭で歩き始めた。雪びを踏み抜く事が怖くて、どうしても木のそばを歩いてしまう。急登の柔らかい雪を3回程ラッセルした。昨年わかんで経験していたが、相当体力を消耗する。一本とった後20分で頂上に到着した。頂上からの眺めは良く、昨年天候の悪化にて断念した毘沙門岳を見てリベンジしたいと改めて思う。30分ほど休憩し、少し寒さを感じたので寒暖計をみると+5度で思ったより高かった。風に当たり汗が冷えて来たらしい。下りは順調だったが、スノーシューの付け方が悪く、登山靴の前がスノーシューと当たってしまい途中で付け直した。やはり何事も経験をしてみないと分からない。登り始めの場所までは30分で到着し、スキー組と別れ、油井さんと2人で駐車場まで歩き始める。横目にスキーヤーをうらやましく眺めながら、1時間休憩なしで歩き到着した。かなり疲れたが満足のいく山行となった。(天野)

<2/21 ウイングヒルズ白鳥スキー場>

1日目はウイングヒルズ白鳥リゾートで楽しんだ。ゲレンデボトム(標高870m)からトップ(標高1350m)までゴンドラで一気に上がり、トップからは上級者用・初級用共に用意されている為、誰でも安心して楽しめるスキー場であった。朝方まで降った雪のおかげで、一部アイスバーンや荒れた雪面があるものの新雪を十分楽しむ事が出来た。しかも、空は晴れ渡り眺めは最高、絶好のスキー日和となった。最初何度かはゴンドラで上がり初級コースメインで滑走した。途中急斜面やコブのコースも挑戦したが、先輩方は皆慣れた感じですべり下りていく。板が外れるほど派手に転んでいたのは私だけか? なんとか勘を取り戻すべく奮闘した。昼食はゲレンデ中腹のレストラン「LOOK」でとった。屋根からの落雪の際には轟音と共に建物全体が少し揺れているのを感じ、昨晚の降雪の多さを思わせた。食事後、皆で少し談笑した後再びゲレンデへ。山行組と一部合流し休憩を取りながらリフト運行時間(~16:30)ぎりぎりまでゲレンデで楽しんだ。(阿部)

リーダー

江頭
09.03.11

天野
09.03.11

阿部
09.03.11

つづき

<2/22 ウイングヒルズ白鳥スキー場>

2日目はイトシロシャーロットタウン。1日日程の規模は無いが、ゲレンデ中腹以上は急斜面が広がっており手ごたえのあるスキー場だった。最初に渡辺先輩が先頭を切って行ったコースは急斜面+コブの上級者コース。私は全く歯が立たず降りるのに難儀した。その後は中級コースをメインに滑走した。ゲレンデ下部にはポールバーンが設けられており、江頭先輩のレッスンを受けながら何度かタイムを計りながら挑戦した。昼頃林間コースを皆で滑り降りてゲレンデスキーを終了した。私にとっては最初の例会参加であるが、先輩方と交流でき楽しい時間を過ごせた。(阿部)

『石徹白の思い出 2009』油井先輩より

- ・なつかしい 五十年ぶり いとしろの 桃源郷は 夢の彼方に
- ・ゴンドラの 上の駅から 水後の 峰を目指して 雪山登る
- ・黒文字の 枝がさえぎる 雪のみち 前ゆく人の むちを避けつつ
- ・スノーシュー カリカリならし 尾根を行く 雪っぴ避けつつルートを探す
- ・スノーシュー 初めて着けて 尾根筋を 登りて水後 いただきに立つ
- ・一本は タンネの木陰で 風避けて あめチョコクッキー ダンケにビッテ
- ・大日は あの峰のかげ 行きたいね 次はのぼるぞ 計画たてて
- ・満天の お湯はたっぷり ひろびろと ゲレンデ見ながら 露天たのしむ
- ・民宿の 鴛谷さんで みな集い 夕餉のあとは 思い出語る
- ・くろもんじゅ 石徹白わかん 手に取りて おしたに青年 熱弁かたる
- ・爪のある たてやまわかに 比ぶれば いとしろのそれ ひとまわり大
- ・黒文字は 土地の言葉で くろもんじゅ いとしろわかに ひめし思い出
- ・ユニホーム 昔の夢が まつわりて 囲炉裏かこみつ 思い出語る
- ・ストックと ブーツと板の セット借り 久しぶりだよ ゲレンデすべる
- ・久しぶり 板の感触 なれるまで ゆっくりすべる いとしろの雪
- ・まかせとけ ポールくぐりは お手のもの 皆より早い 最高タイム
- ・一回も ころばず滑る ゲレンデも 腰掛けそこねて リフトを止める
- ・もちつきの 杵持つ所作も 久々に やがて調子が でるころおわり
- ・つきたての 三色もちの 思い出は 味覚に残して また訪ね来ん
- ・いとしろの 時は流れて 五十年 桃源郷は いまや楽園

<リーダー所見>

「民宿 おしたに」を利用した山行も3年目。昨夜の降雪のおかげで、スノーシューのメンバにとっては、新雪、クラスト、帰りは腐ってしまったが変化する雪をコース楽しめたのではないか。一方で山スキーのメンバにとっては(今年も)ルートが狭く、難儀を強いてしまい、反省しきり。下山後にゲレンデのメンバと合流しての滑走で鬱憤を晴らしてもらうしかなかった。油井先輩には大感謝。行動でのパワー、次々繰り出される短歌も冴えわたる。紹介していただいた石徹白わかんや、往年のユニフォームがOBから新人までメンバをひとつにしてくれた。お元気な大将、女将さんとも一緒に喉自慢大会も復活。